

一〇二三年八月二日

爺の背な水鉄砲に滅多打ち
藍染の卓布に変へて涼新た
民宿の客も総出で鰯引く
幼な子も花桶運ぶ墓参かな
初めてのお泊りできし夏休み

一〇二三年八月一〇日

一〇二三年八月七日

なつき
澄子
みきお
みきえ
なつき
みきえ
なつき
はく子
あひる

氣功の手翳す秋天支ふごと
立ち食いの頬にケチャップ夏祭
潮吹きのごと尾根影に遠花火
銀輪の夫の荷台に大西瓜

小袖
豊実

一〇二三年八月五日

帆のごとく翅立て運ぶ蟻の列
笊の豆涼しまろべば波の音
ご遺影に語りかけもし盆用意

ななかまど色づく蝦夷の大路かな

一〇二三年八月九日

みきお
小袖
小袖
ぽんこ
ぽんこ
むべ

祭の夜むかしの声のままに知己
ペンギンの頭上を泳ぐ館涼し

小袖
豊実

毎日句会みのる選・一〇二三年八月一三日

もとこ
素秀
たか子
なつき
こすもす

かき氷食ぶ友の愚痴聞きながら
掌の返へれば進む踊の輪
暑に耐ふる介護ノートの日数かな
お泊りの孫と一緒に盆用意
清らかな子らの宣誓原爆忌

一〇二三年八月八日

水足らぬ面して畠の夏野菜
玉蜀黍を抜けてチャペルへと
全容に薦を鎧ひし供養塔
サンダルをはみ出す指に絆創膏

明日香
むべ
ぽんこ
もとこ